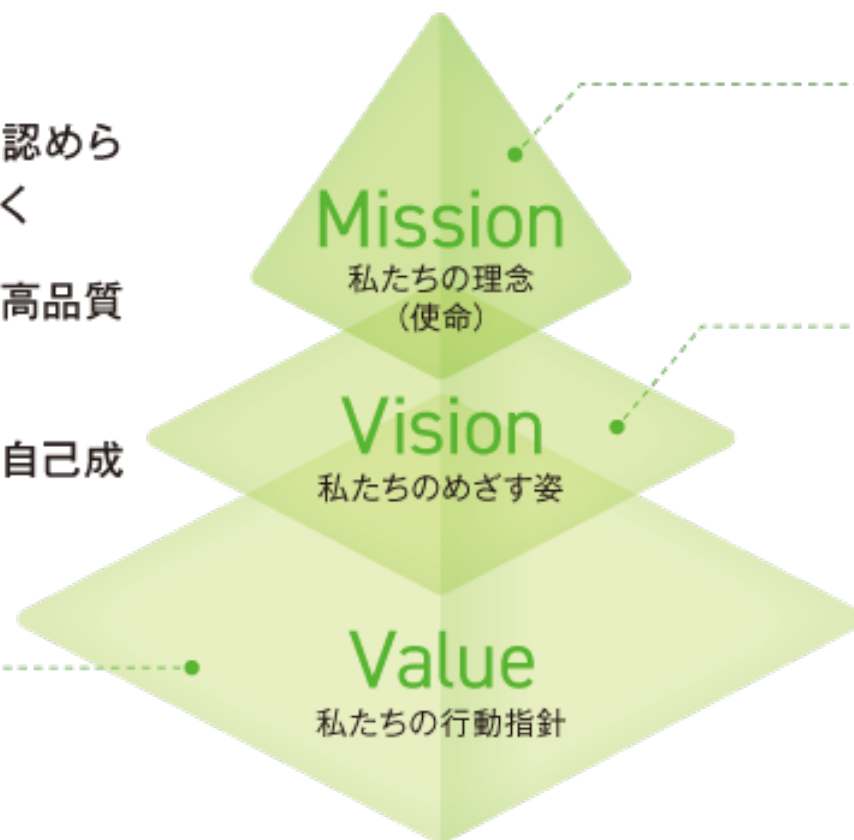


# FY2024.2Q 決算概要説明資料

2024.4.1 ~ 2024.9.30

# えがおを、ずっと。えがおに、ずっと。

1. 全社一丸となって社会で認められる一流企業への道を拓く
2. 一歩優れた特徴を持つ、高品質な商品を提供する
3. 事業を通じ、社会貢献と自己成長を実現する



社会の保健衛生の向上と  
豊かな衣生活を実現します

メーカー・卸の2つの立場  
から新たな価値を創造し、  
安心・安全な商品を提供し  
続ける

Mission

私たちの理念  
(使命)

Vision

私たちのめざす姿

Value

私たちの行動指針

**01** FY2024.2Q 業績概要

**02** 中長期的な企業価値向上に向けて

# 01 FY2024.2Q 業績概要

## 02 中長期的な企業価値向上に向けて

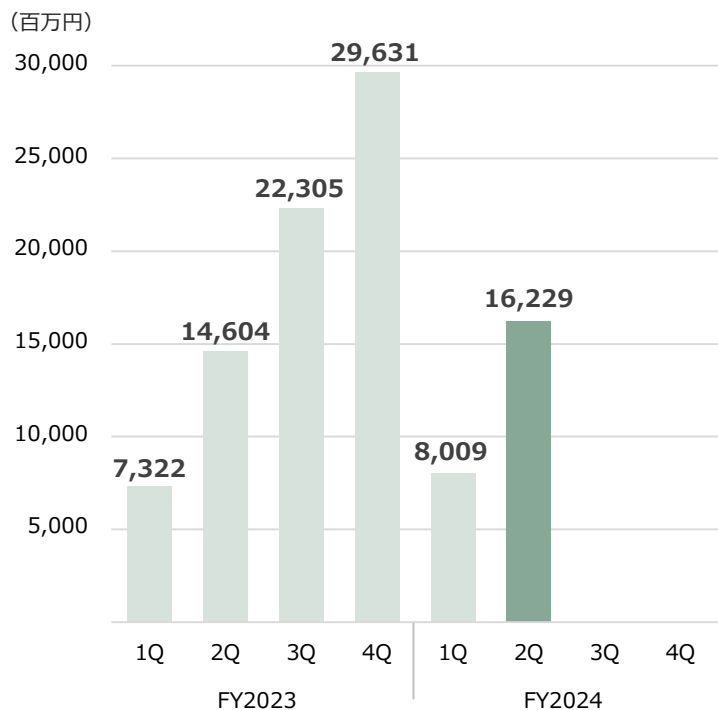
# 業績ハイライト (2024.4~2024.9累計)

## 売上高

**16,229** 百万円

前年同期比 111.1 %

通期計画進捗率 52.4 %

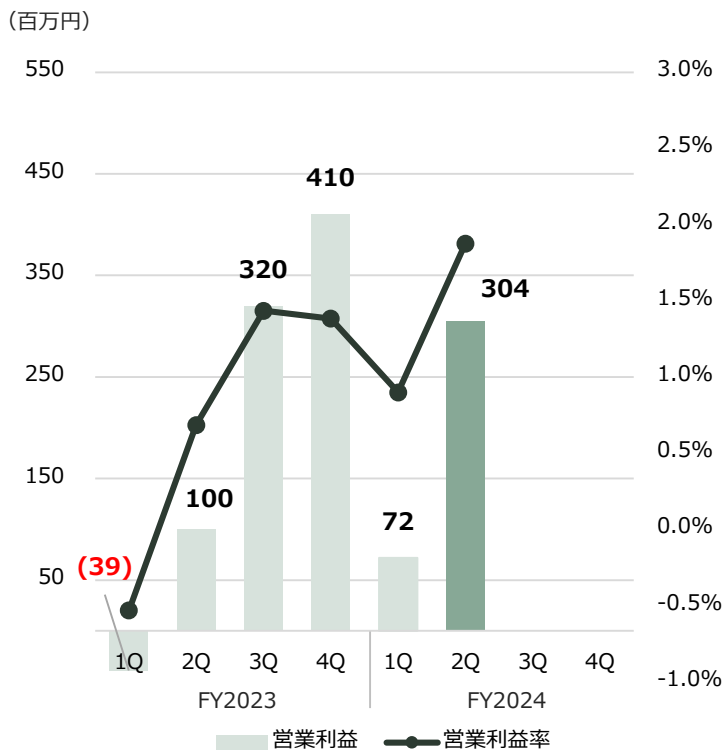


## 営業利益

**304** 百万円

前年同期比 303.4 %

通期計画進捗率 60.9 %

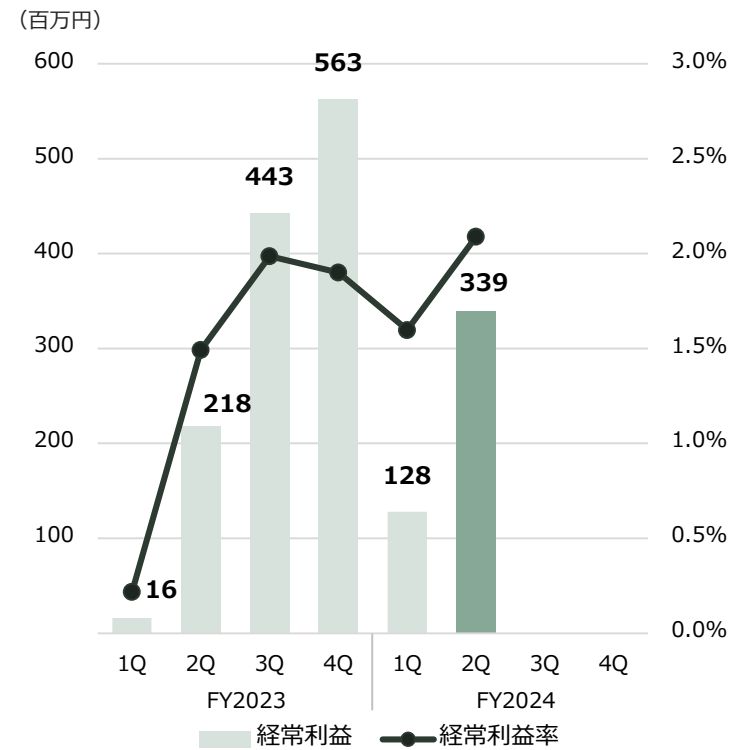


## 経常利益

**339** 百万円

前年同期比 155.8 %

通期計画進捗率 52.3 %



# 連結損益計算書

売上高は前年同期比111.1%、営業利益は前年同期比303.4%と堅調に推移

経常利益は為替が円高に振れたことによる為替差損増加が要因で、進捗率が営業利益の水準を下回る

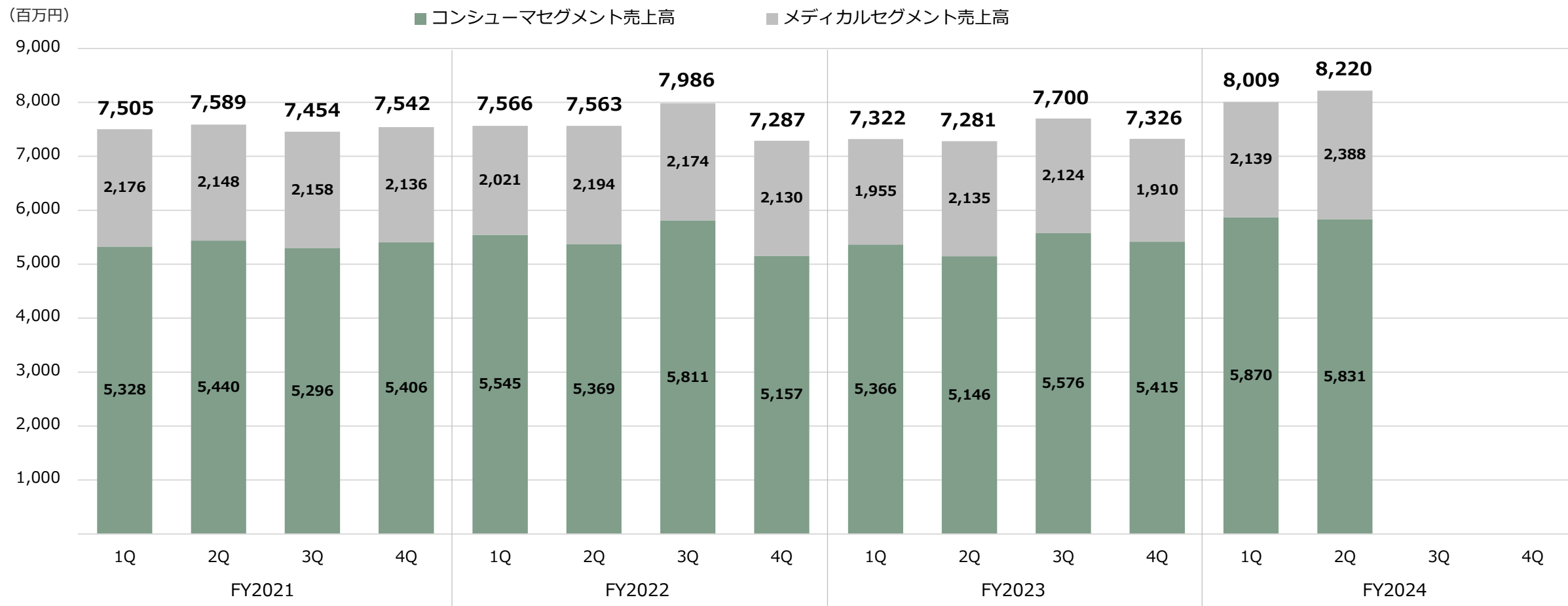
(単位：百万円)

	FY2023.2Q (2023.4~2023.9)	FY2024.2Q (2024.4~2024.9)	前年同期比	FY2024 通期計画	通期計画 進捗率
売上高	14,604	16,229	111.1%	31,000	52.4%
売上原価	12,178	13,453	110.5%	-	-
売上総利益	2,426	2,776	114.4%	-	-
販売費及び一般管理費	2,326	2,471	106.3%	-	-
営業利益	100	304	303.4%	500	60.9%
営業利益率	0.69%	1.88%	-	-	-
経常利益	218	339	155.8%	650	52.3%
経常利益率	1.49%	2.10%	-	-	-

# 売上高の四半期推移

FY2024.2Qの四半期売上高は、直近3期の最高値にて着地

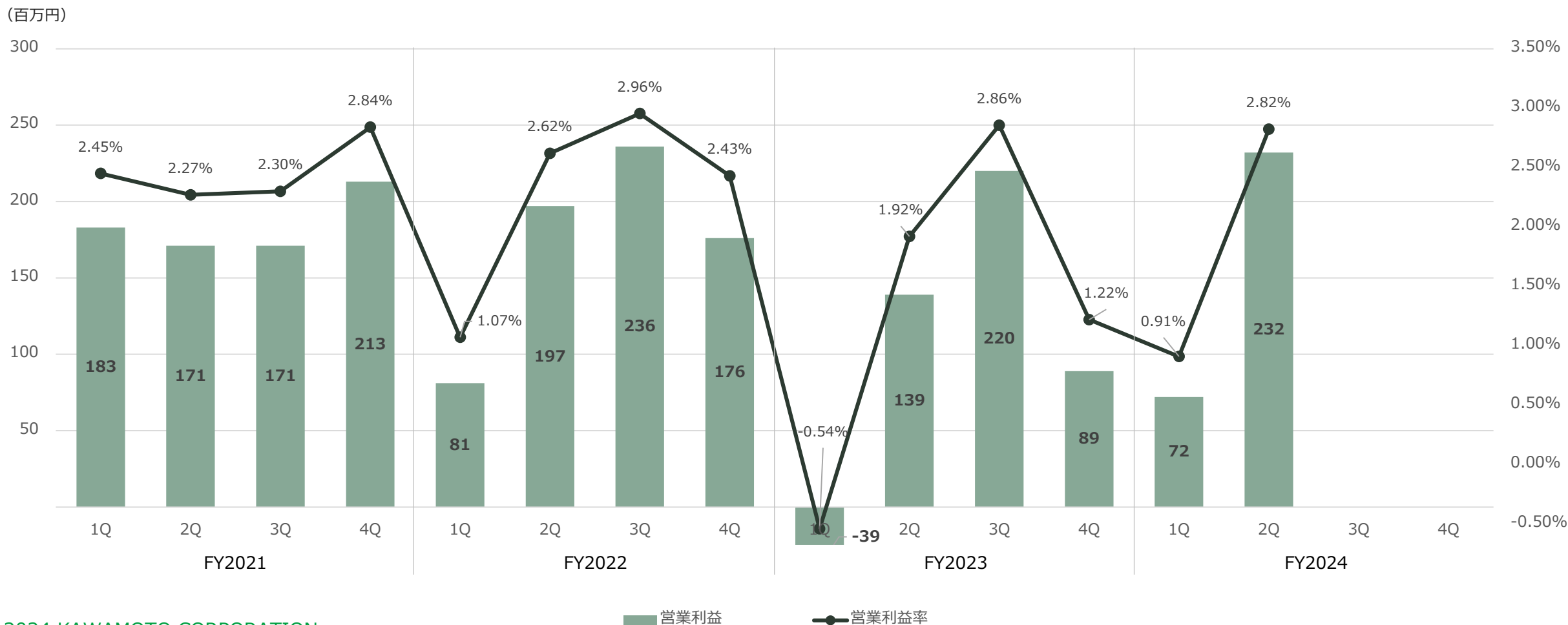
コンシューマ四半期売上高、メディカル四半期売上高も共に直近3期での最高値



# 営業利益の四半期推移

FY2024.1Qの営業利益率は若干落ち込んだものの、2Qにおいては営業利益率2.82%まで改善

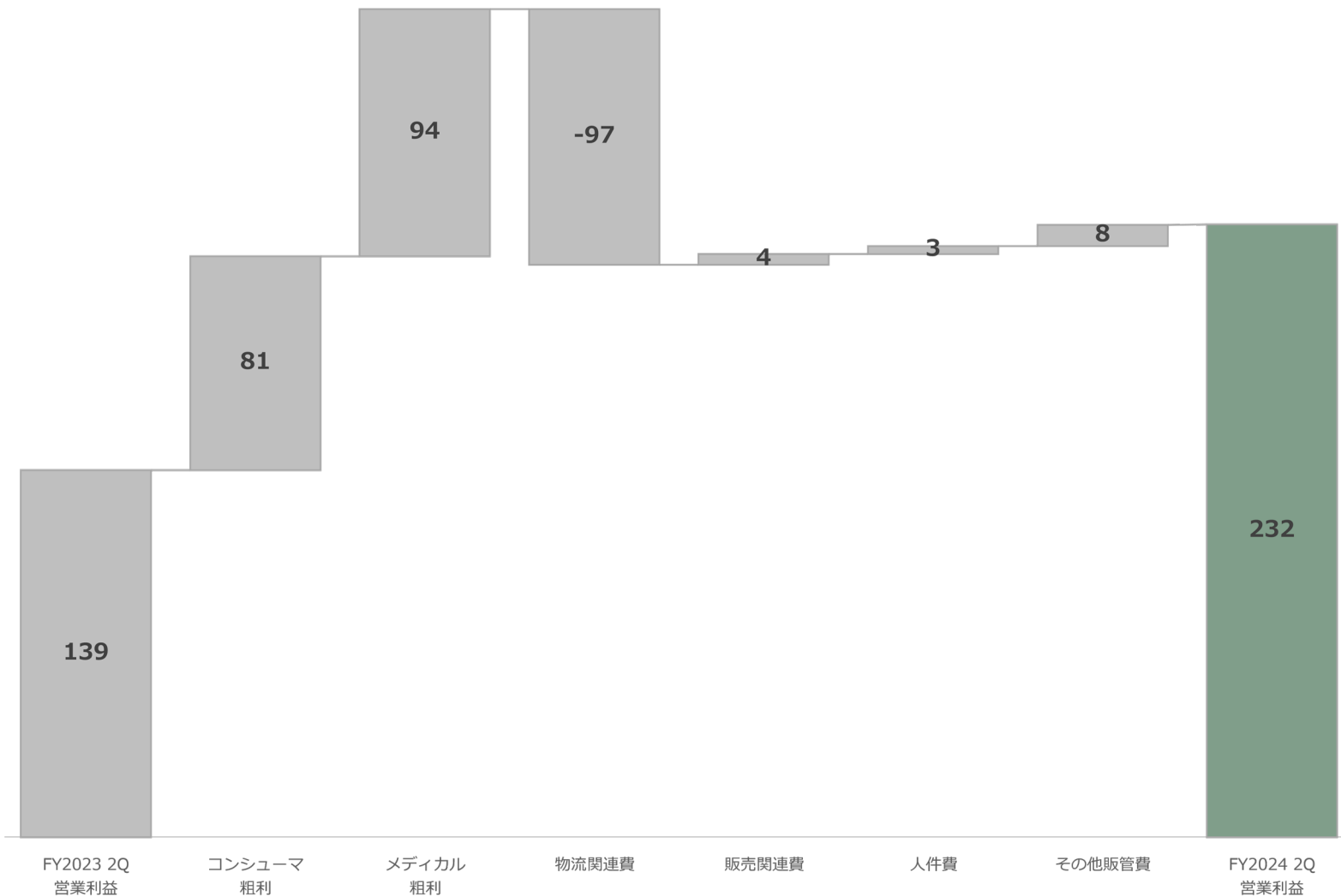
営業利益額も直近3期の2Q比較では最高値での着地となった





# 営業利益の増減（前年同期比）

（単位：百万円）



## ■ 粗利の増減要因

### [コンシューマセグメント]

- 一般消費者の防災意識の高まりを背景にして、主要取引先向け売上が拡大
- 口腔ケア製品が好調に推移  
(前年同期比 107.6%)

### [メディカルセグメント]

- 「JOBST製品」の販売開始
- 介護用製品が好調に推移  
(前年同期比 112.7%)

## ■ 販管費の増減要因

- 物流関連費の増加  
(物流関連費0.42ポイント増加)

# 連結貸借対照表

堅調な業績推移を受け運転資金が増加傾向、運転資金を支えるため有利子負債は若干増加

D/Eレシオは0.8であり、財務健全性は維持

(単位：百万円)

	FY2023 2Q	FY2024 2Q	前年同期比		FY2023 2Q	FY2024 2Q	前年同期比
現預金	1,697	1,496	-201	支払債務	3,864	4,095	231
売上債権	9,304	10,024	720	有利子負債	3,440	3,787	347
棚卸資産	2,654	2,967	313	その他の流動負債	1,083	1,228	145
その他の流動資産	756	825	69	<b>流動負債</b>	8,389	9,112	723
<b>流動資産</b>	14,413	15,313	900	有利子負債	2,863	2,625	-238
有形固定資産	3,326	3,262	-64	その他の固定負債	771	663	-108
無形固定資産	696	700	4	<b>固定負債</b>	3,634	3,288	-346
投資その他資産	1,105	1,124	19	<b>負債合計</b>	12,023	12,401	378
<b>固定資産</b>	5,127	5,087	-40	<b>純資産</b>	7,517	7,999	482
<b>資産合計</b>	19,540	20,400	860	<b>負債純資産合計</b>	19,540	20,400	860

現預金 1,496	仕入債務 4,095
売上債権 10,024	
棚卸資産 2,967	その他負債 1,894
その他の流動資産 825	純資産 7,999
固定資産 5,087	

## 通期計画

通期計画については2024年5月に開示の業績予想値からの修正はなく、

通期ベースで増収増益の予想

(単位：百万円)

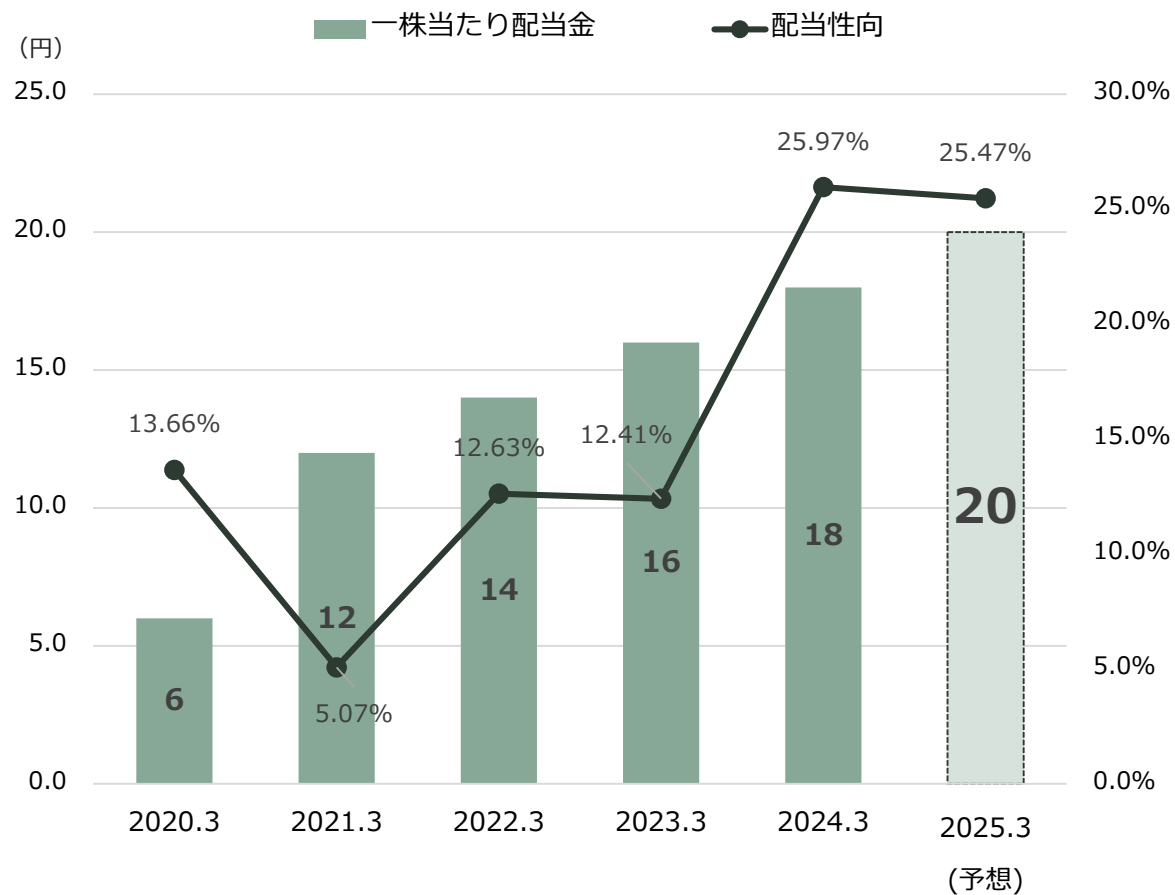
	上期	通期	通期計画に対する 上期進捗率	2024/3期 実績
売上高	16,230	31,000	52.4%	29,631
営業利益	304	500	60.9%	410
経常利益	340	650	52.3%	563
親会社株主に帰属する 当期純利益	239	455	52.5%	401

# 株主還元（配当）

内部留保の充実を図りつつ、更なる利益還元策を推し進める方針

配当性向25%を維持し、中長期的には配当性向30%を目指す

	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2025.3 (予想)
1株当たり配当金 (期末)	12円	14円	16円	18円	<b>20円</b>
配当性向	5.07%	12.63%	12.41%	25.97%	<b>25.47%</b>
株主資本配当率 (DOE)	1.43%	1.49%	1.52%	1.63%	<b>1.72%</b>



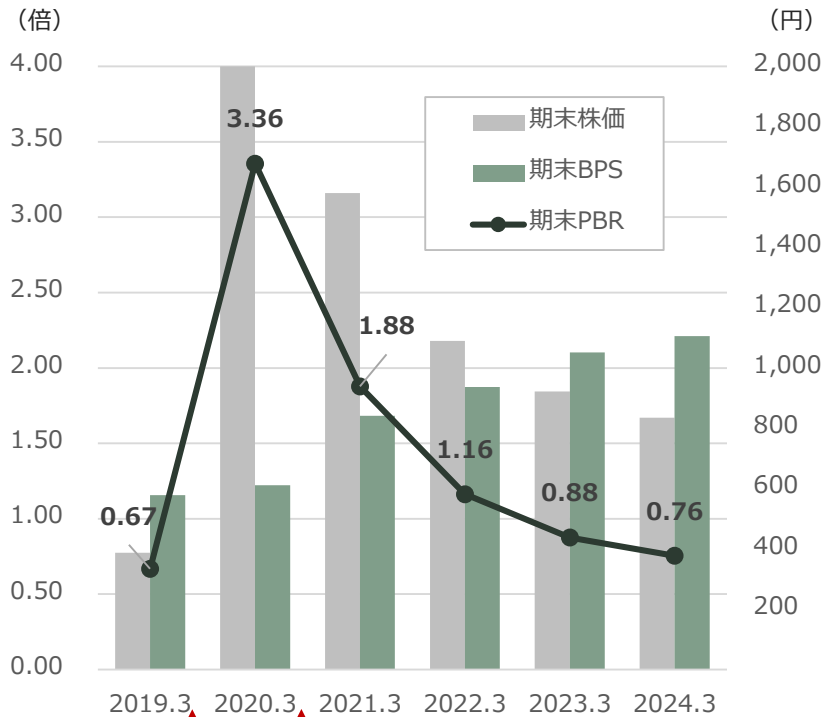
01 FY2024.2Q 業績概要

02 中長期的な企業価値向上に向けて

# 市場評価に関する現状認識

2020年の新型コロナウイルス感染症拡大により、当社に対する「期待値」が高まり、PBR・PERも急上昇するも、その後は下落基調となっている。

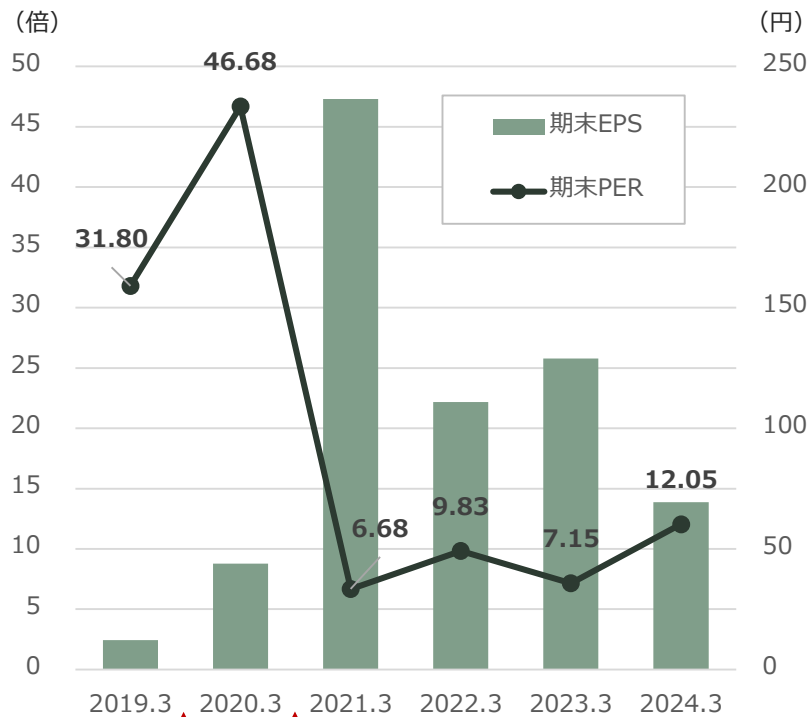
PBRの推移



2019.12  
新型コロナウイルス発生  
(中国・武漢)

2020.4  
第一回緊急事態宣言  
(日本)

PERの推移



2019.12  
新型コロナウイルス発生  
(中国・武漢)

2020.4  
第一回緊急事態宣言  
(日本)

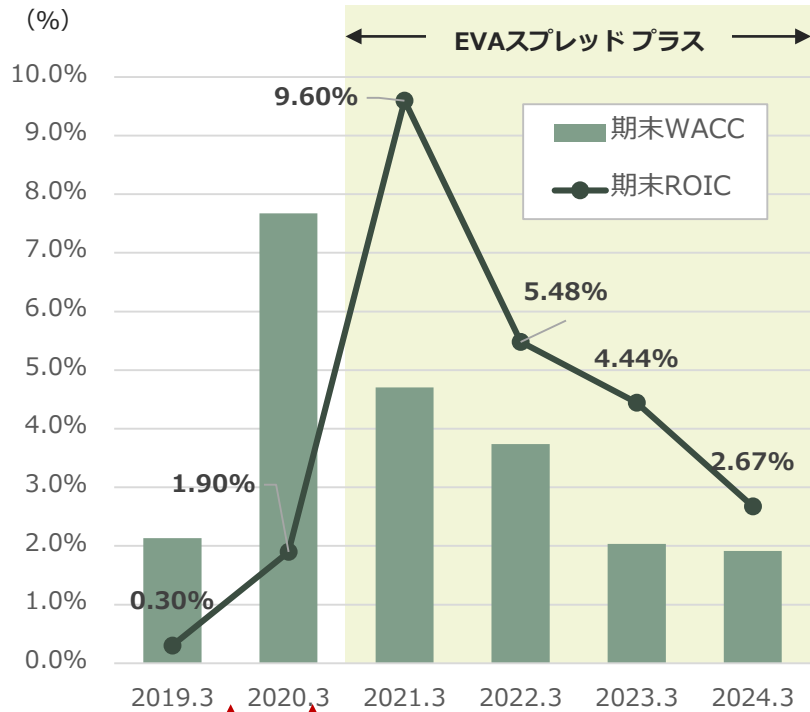
- 2020年3期は新型コロナウイルス感染症拡大を発端として「期待値」が高まった (PBR・PERが急上昇)
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い当社プロダクトの需要が拡大し、2021年3期は相応の利益を確保 (EPSが上昇)
- 2022年3期以降も安定的に利益を生んでいる一方、株価は下落基調。PBRは再び1倍を下回っている。2020年3期に高まった市場からの「期待値」を超える成果には至っていないと認識
- 現時点における当社の市場評価は外部環境変化(マクロ)に依るところが大きいと推測。今後はいかなる外部環境下でも持続的成長が可能であることを対外的に示していく必要がある

# 資本収益性に関する現状認識

## FY2020以降、ROIC・ROEともにCAPMベースの資本コストは上回っている認識

一方、前頁の通り株価は低調であり、市場が期待するリターンはさらに高い水準である可能性が高い

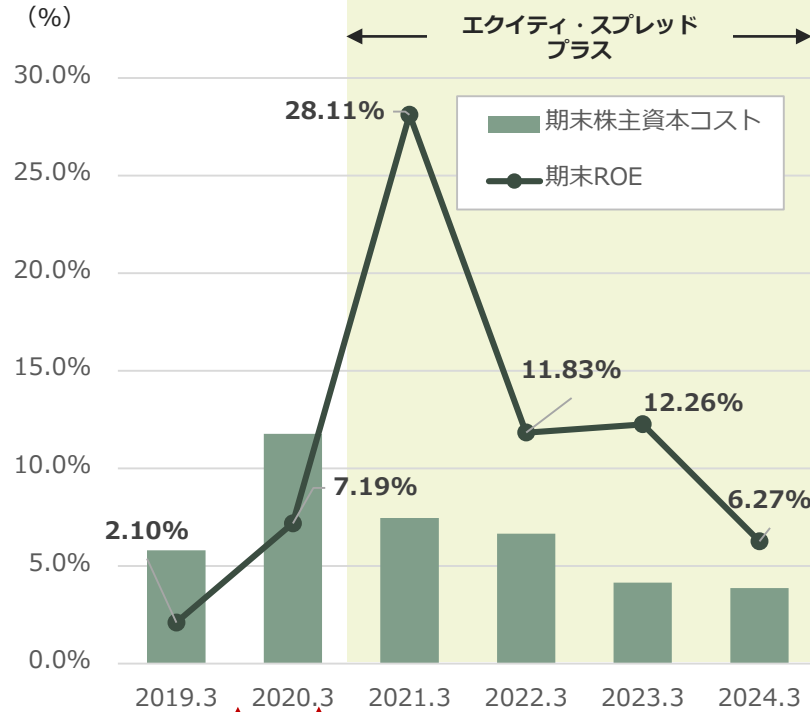
ROIC・WACCの推移



2019.12  
新型コロナウイルス発生  
(中国・武漢)

2020.4  
第一回緊急事態宣言  
(日本)

ROE・株主資本コストの推移



2019.12  
新型コロナウイルス発生  
(中国・武漢)

2020.4  
第一回緊急事態宣言  
(日本)

- 2020年3期以降はROIC・ROEともにCAPMベースの資本コストを上回っている認識
- ただし、平時における当社株価は市場全体と比べボラティリティが低く（ $\beta$ 値が低くなる）、CAPMベースでの資本コストは低くなる傾向がある。したがって、CAPMベースの資本コストと実態の期待リターンの水準には乖離が生じている可能性がある
- また、当社の認知度が不足していることも推測され、認知度が低い場合、仮に相応のリターンが期待できたとしても、投資の検討対象に上がらない可能性もある

ROIC :  $\text{NOPAT} \div (\text{有利子負債} + \text{株主資本})$

WACC : 負債コスト及び株主資本コストの加重平均

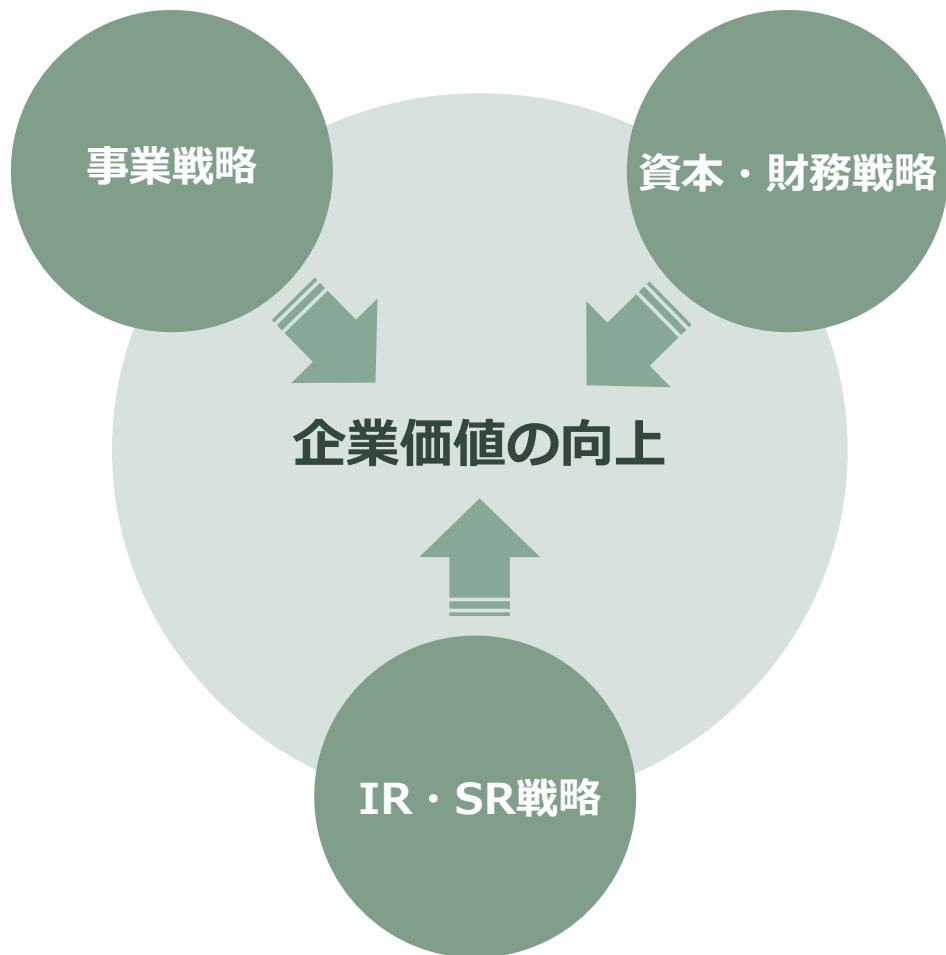
株主資本コスト : CAPMベースによる当社試算値

ROE :  $\text{親会社株主に帰属する当期純利益} \div \text{株主資本}$

# 企業価値向上に向けた取組み・方針

①外部環境に左右されない持続的な企業価値向上の実現、②市場からの認知度獲得を喫緊の課題と認識

上記課題解決のため、以下の取組みを推し進めていく方針



## 事業ポートフォリオ再構築 -収益性の向上-

- 収益性が低い事業や製品群からの撤退（売上規模より利益率を重視）
- 成長が見込まれる事業や国への投資（市場成長率の高い製品群や海外への進出）
- 2030年度に営業利益率4.0%を目標

## 資本・財務戦略 -ROIC経営の浸透-

- 非事業資産の見直し（余剰資金の減少、政策保有株・遊休資産の売却など）
- 採算性が低い事業資産の売却
- 取締役会、経営会議にてROIC実績を共有
- 2030年度にROIC8.0%、D/Eレシオ0.6を目標

## IR・SR戦略 -認知度の向上-

- 情報開示を充実していき、市場とのコミュニケーション頻度を高める
- 決算概要説明資料（本資料）開示の開始
- 企業広告や製品広告の増加



- 本資料に記載されている計画、業績予測などの将来の見通しに関しては、現時点で当社が入手可能な情報に基づき当社が合理的であると判断したものです。これら将来の見通しは、市況や政治・経済状況など様々な不確実性を含むものであり、実際の業績とは異なる場合があります。
- 本資料は、当社株式の購入や売却等の投資勧誘を目的とするものではありません。
- 投資は、ご自身の判断のもと、ご自身の責任において行なっていただくようお願いいたします。



《お問い合わせ先》

川本産業株式会社 経営企画室

06-6943-8951